

ベンサム

2017年追試

問4 個人と社会とのあるべき関係を追求した社会思想に功利主義がある。この功利主義を唱えた思想家の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

32

- ① ベンサムは、快を幸福とし苦痛を不幸としたうえで、その快苦を数量化し、社会全体の幸福の最大化を目指そうとしたが、最終的には快樂計算は不可能であると考えた。
- ② ベンサムによれば、個々人は利己的に振る舞いがちであり、利己的振る舞いを社会全体の幸福に一致させるためには、政治的制裁などの外的な強制力が必要である。
- ③ ミルは、快に質的差異があることを認めたが、人間には感性的な快を求める傾向性があるので、万人に等しく分配されている良識によって自らを律することが大切であると考えた。
- ④ ミルによれば、人間は精神的に成長するものであり、自らの良心の呼び声によって、^{たいらく}頹落した世人から本来的な自己に立ち返り、利他的に振る舞うようになる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問4	32	②	3

2013 年追試

問 2 下線部 **b** に関して，次のア～ウは自然権ないし自然法について考察した思想家の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

31

ア ホッブズは，人間は生まれながらにして自己保存の欲望をもち，その欲望を追求する自然権を有していると考えた。

イ ベンサムは，個人の生命・自由の保障は，理性の声である自然法に基づくものであると考えた。

ウ グロティウスは，人間本性に由来する普遍的原理としての自然法と，国家間の取り決めである国際法は対立関係にあると考えた。

- ① ア 正 イ 正 ウ 正
- ② ア 正 イ 正 ウ 誤
- ③ ア 正 イ 誤 ウ 正
- ④ ア 正 イ 誤 ウ 誤
- ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 正
- ⑥ ア 誤 イ 正 ウ 誤
- ⑦ ア 誤 イ 誤 ウ 正
- ⑧ ア 誤 イ 誤 ウ 誤

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	31	④	2

2012 年本試

問 5 人間と動物は対等な生命と考えることに関連して、次のベンサムの記事を参考にしながら、ベンサムの思想の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 35

人間以外の動物が、人間の暴力的な支配によって奪われてきた権利を手に入れる日がいつか来るかもしれない。……脚の数が違うことや……尾のあることが、感覚をそなえた存在を気ままに苦しめてよい十分な理由にならないことが、いつの日かきっと明らかになるだろう。それなら、人間とそれ以外の動物との間に越え難い一線を引くものが、ほかにあるだろうか。思考の能力や話す能力の有無がそれだろうか。しかし、成長した馬や犬は、生後1日や1週間の赤ん坊と比べても、1か月の赤ん坊と比べても、はるかに理性的であり、はるかに意思の疎通ができる動物である。また、たとえそうでなかったとしても、そこに何の意味があるだろうか。問題は、馬や犬が理性的に考えられるかでも、話すことができるかでもなく、苦痛を感じるができるかなのである。

(ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』)

- ① ベンサムは快樂の量と質の区別を重視したため、感覚をそなえていることこそが、利益を尊重すべき存在とそうでない存在を分ける唯一の境界線になると主張している。
- ② ベンサムは最大多数の最大幸福を目指したため、幸壺の量を計算できる知性をもつことこそが、権利を尊重すべき存在とそうでない存在を分ける境界線になると主張している。
- ③ 道徳感情を正と不正の判断基準にするベンサムにとって、苦しみや痛みを感じるができる能力は、言語能力や高等数学の能力のような他の能力とは根本的に異なるものである。
- ④ 快樂を善とし、苦痛を悪とみなすベンサムにとって、苦しみや痛みを感じるができる能力こそが、何らかの存在が平等な配慮を受ける権利を得るために ^{ひつす} 必須 の能力である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 5 問	問 5	35	④	4

2009 年本試

問 4 人間の意志は道徳法則を義務として受け止め、かつそれに従いうる。このように道徳を捉えたカントに対して、功利主義者ベンサムは行為の判断基準として行為の結果を重んじた。後者の考え方による発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 「私は、どんな状況下でも嘘^{うそ}をつくべきではないと考えているので、自分に不利益が及ぶとしても、正直に話をすることにしている。」
- ② 「私の行動原則は、その時々自分の快楽を最大にすることだから、将来を考えて今を我慢するようなことはしないことにしている。」
- ③ 「社会の幸福の総和が増大するとしても、不平等が拡大するのはよくないから、まずは個々人の平等を実現すべきだと、私は考える。」
- ④ 「自分の行動が正しいかどうか不安を覚えるとき、私は、その行動をとることによって人々の快楽の量が増えるかどうかを考える。」

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	26	④	3

2008 年本試

問 1 文章中の 22 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。 22

知らん顔をして座り続ければ、確かに体は楽かもしれない。けれども、周囲の乗客に気兼ねして心苦しさを覚えるよりは、快く席を譲った方が、よほど気が楽だろうし、老人もまた楽に違いない。そこで、なるべく苦痛を減らし、快樂を増やすよう行動することによって、みんなの幸福を達成するのが正しいことだろう、と考えるなら、22 の道徳説が導きだされる。

- ① 実用主義
- ② 実存主義
- ③ 功利主義
- ④ 禁欲主義

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	22	③	2

2007 年本試

問 7 制裁（サンクション）についてのベンサム思想として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 人々の生命・自由・財産を適切に維持するためには、各人は私的な制裁権を公共の政治的権力に委託しなければならない。
- ② 人間はもともと利他的であるから、刑罰による法律的な制裁よりも、良心に訴える内的な制裁の方が重要である。
- ③ 人間に対して与えられる制裁は様々であるが、神による死後の裁きという宗教的な制裁が最も重要である。
- ④ 公益をそこなう行為をした者に対しては、その行為によって得た利益を上回る不利益を与えるような制裁を加えねばならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 7	29	④	3

2005 年本試

問 5 ベンサムに従うと、人はどのように快樂や苦痛を計算すべきであるか。その具体例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① お喋りしながら缶入りのお茶を飲むよりも、お茶会の方が精神的な深さがある。こちらの方が高尚な快樂である。
- ② 彼女は立派な人格の持ち主で、誰からも尊敬されているから、彼女の得る快樂には二人分の快樂の価値を認めよう。
- ③ たちまち飽きがきてしまうような玩具よりも、長く遊べるような玩具の方が、大きな快樂を与えてくれる。
- ④ とてもおいしいご馳走だった。そのせいでおなかをこわしたとしても、ご馳走が与えた快樂が差し引かれるわけではない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	16	③	3

2000 年追試

問 4 功利主義者ベンサム 次の有名な言葉は、人間の利己的な本性を示唆するものだと解釈することができる。つまり、人間の行為の究極的な動機は、ただ自分自身だけの快楽を求め、苦痛を回避しようとするところにある、ということである。こうした人間の本性を前提とした場合、人間に、社会全体の幸福に役立つ行為をさせるにはどうしたらよいか。ベンサムが示した解決法として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 20

自然は人類を苦痛と快楽という二人の主権者の支配のもとに置いてきた。我々が何をしなければならないかということを示し、また我々が何をすべきであろうかということを決めるのは、ただ苦痛と快楽だけである。

(ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』)

- ① 為政者や立法者のような立場の人々が、社会の成員に対して、他人を犠牲にしても、ただひたすら自分の快楽だけを追求するように促す。そうすれば、不幸な人が出てきても、総和としての社会の幸福は最も大きくなる。
- ② 教育する立場の人々が、社会の成員に対して、他人の喜びや苦しみを理解する共感能力を養わせる。つまり、他人の快楽が自分の快楽となり、他人の苦痛が自分の苦痛となるような性向を身につけさせる。
- ③ 為政者や立法者のような立場の人々が、社会の成員に対して外的な条件づけを行う。つまり、社会全体にとって益になる振る舞いをした者には賞を与え、害になる振る舞いをした者には罰を与える。
- ④ 教育する立場の人々が、社会の成員に対して、内面的な良心を植えつける。つまり、社会の幸福に努めるべきであるという義務感をもたせたり、この目的に逆らう行為をしたときに罪悪感を感じさせたりする。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	20	③	4